

たんぽぽ

発行者 川村 克彦

新年あけましておめでとうございます

1年の始まりに際して

令和7年が始まりました。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。令和6年は、1日の能登地方の大地震から始まりました。自然には勝てないところがありますが、とりあえずは大きな自然災害もなく新年が始まってよかったです。

さて、乙女小学校は、3か月後に網戸小学校との対等統合があります。それに向けての、方針や考え方を今学期は、週に一回程度を目安にお知らせしていこうと考えています。ただ、2つの学校が一緒になるだけとは考えずに、これからの教育をめざしたより良い統合になるようにしていきたいと思います。

主体性のある子に育てる

さて、来年度に向けてですが、本年度同様「やる気のある子に育てる」つまり「主体性のある子に育てる」が学校経営の方針としたいと考えています。これは、来年度校長が代わっても引き継いで行っていってくれる方針だと思います。昔から主体性とは言われていますが、なかなかできてこなかった。平成28年に出た中教審の答申（日本の教育の基本方針がここで話し合われます。この答申に沿った教育改革が行われることになるので、その内容や方向性は学校現場にも大きな影響を与えます。）でも、「戦後すぐの昭和22年の改革と同程度の大きな改革」とのべられています。その大きな柱の一つが主体的な子どもの育成です。

今、授業改革も行っています。子どもたちが主体的になるために教職員自らが主体的に考えて教育ができるようにしていかなければならないと考えています。「指示している間は、子どもの主体性は絶対に育たない。」「自分で考えて動けるようにならないとこれからの世の中は、生きていくのが困難である。」とされています。言葉で言うのは簡単ですが、これがなかなか難しい。教職員も含め現在の大人は、失敗しないことが最も重要視されて教育をうけてきたために、社会に出て保守的でチャレンジしようとなかなかしない、「怒られない」事だけを目的に同歩調で動くような世の中で育ってきました。もちろんこれからの世の中も主体性が大切だからといって、自分勝手に動くことではありません。社会という人の中の一員としてどのようなことを考えて動くことによって自己実現がなされていくかまで考えられての主体性です。そのために教職員も含め大人は、以前のように怒っていては、主体性は育ちません。「怒られるからやる。」になるので。では、「褒めていく」はどうかというと怒るよりいいに決まっています。でも「褒める」は、褒められるから動くので、「今日は〇〇したのに褒めてくれない。」とやっぱりあまり主体性は育っていきません。（褒めることはよいことです。決して悪いことではありません。ただ褒めていけばいいのではなく、主体性を育てるのはもっと奥が深いということです。）またこれからも一緒に考えていけたらと思います。

あわせて来年度のことについても徐々にお知らせしていきます。